



## 6月総会に向けて

市原 美幸

うらかな春の日差しが心地よいこのごろですが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

前号の会通信からこれまで3か月の間、世間では様々な出来事がありすぎて、多方面からの情報に翻弄され、未来への希望が足元から揺らいでしまうのではという不安と恐怖さえ抱きます。

人々が一日も早く心穏やかに過ごせる日常に戻ることを願うばかりです。

府中がんケアをかんがえる会では、がん患者さんやご家族、一般の皆様ががんケアに関する正しい情報について惑わされることなく、様々な視点から発信していく事を念頭に活動を続けています。本会報では、アンケート結果の頁で当会から発信させて頂いているがん情報も載せておりますので是非ご覧ください。



発足から20年を迎えた今年度は、昨年6月にがんの最新治療と標準治療の選択について勝俣範之先生のご講演と、11月にはがんに罹った家族や友人への寄り添い方について花木裕介さんにオンラインでご講演頂き、それぞれ、がんに罹患した際の治療の選択について、がん当事者への寄り添い方等について学ぶことが出来ました。

20年という節目を終えて21年目の次年度は、今年度のアンケートから寄せられたご意見をもとに、5年ぶりに地域医療における最新のがん情報や現状に視点を置き、皆様とがん情報についての共有が出来ればと考えます。

6月の講演会では、当会顧問の芝祐信先生(多摩総合医療センター副院長)にご提案頂き「AYA世代のがんについて」をテーマに準備を進めております。

AYA世代とは、15歳から39歳までのAYA(Adolescent and Young Adult: 思春期・若年世代)を示します。AYA世代のがん患者が抱える問題と対策、について当会でも第45号会報に掲載しました。また、活動計画の一つとして、府中市に必要なAYA世代のがん患者対策、支援策についても、講演会を通して発信していきたいと思っております。新型コロナウイルス感染対策を機会にオンラインと会場での講演会を重ねておりますが、まだまだ模索しながらの会場運営であります。不備な点があるかも知れないことを先にお詫びしつつも、万全を期す思いです。当日会場運営のご協力が可能な方は是非ともご一報いただけますと幸いです。

末筆ではありますが、次年度も活動を続けられることはひとえに会員の暖かいご支援、励まし、応援のお陰でありますことに役員一同心より感謝申し上げます。会の皆様には総会で、ご意見やご要望をお寄せいただき、一人でも多くのご参加を心よりお待ちしております。

## がん情報をもっと身近に

### ～講演会参加者のアンケート結果から～

昨年11月23日に行ったZoom講演会では、講師に一般社団法人がんチャレンジャー代表理事を務める花木裕介氏をオンラインでお招きしました。講演会の内容については、前回の通信で掲載しましたが、講演会に参加いただいた方から寄せられたアンケートについて、ご報告いたします。

参加者の中では、がんのかかわりについて、がん経験者やがん経験者のご遺族、ご友人ががんを経験されたとお答えいただいた方が多くありました。

当日の講演は当事者である花木さんの率直な気持ちと当事者として接し方について、お話をいただいた事もあり、もしがんを患った家族や友人、知人のかかわり方や接し方に、どう向き合う事が大切なのかを学べたという声を多数いただきました。



ご参加いただいた方から、無くて困った支援や情報として、行政の支援や医療関係者、治療費などの経済的な情報、精神的なサポートを挙げる方もおりました。

また、がんケアに関する情報や支援について、もっと医療機関や様々な情報が欲しいと感じる方もいらっしゃいました。

府中がんケアを考える会では、HPで「がんに関わる役立つ情報」を掲載しています。医療機関や部位別がんの概要など情報全般から、痛み・生活についてのアドバイス、最新情報、ホスピス、緩和ケア、抗がん剤・放射線治療、がん患者団体、がん保険までカバーしています。是非とも参考にさせていただければと思います。

府中市では、当会の強い要望で「がん対策」の情報をHPに掲載するようになりました。病院探しや、在宅医療、がん相談窓口、治療と就労、がん患者支援団体などの情報を外部リンクで案内をしております。ご活用ください。

PCやスマホ、タブレットをお持ちでない方には、なかなか情報を取得できず、お困りの方もいらっしゃいます。この通信の最後に記載している、担当の武智(たけち)まで、お気軽にご連絡ください。

稲津 憲護

府中がんケアを考える会 HP

二次元バーコード→

<https://fuchugancare.org/index.html>



### 第21回総会と講演会のご案内

6月26日(日) ル・シーニュ6階、第2会議室(1時半開場)

講演会 テーマ (仮題) AYA世代のがんについて 午後2時～3時半

講師 高原 めぐみ先生 多摩総合医療センター 産婦人科医

総会 同会場 午後4時開会 5時終了

会場およびリモートでの開催予定

2021.03.20

## 症状は、また少し改善したような

目黒真実

「今一度、これまでを振り返って」を書き終えて、少しほっとしました。中間総括を終わらせたってところかな。今日は17日の外来でのレントゲンと血液検査の結果報告します。

3月17日、杏林大学病院の担当医 S 先生との最後の外来診療の日となりました。話によると、小平の方にある総合病院に転任になるとのこと。思えば、私が最初に杏林の救命救急センターに運ばれたとき水を抜くなどの応急処置してくれたのが S 先生でした。

移動式ベッドに乗せられた私の側で、「悪い！悪い！すごく悪い」と口走ったりしていたので、陽子さんは「なんと無神経な！この医者は」と思ったそうです。しかし、会う回数が増えるにつれて、とても患者思いで、正直な先生だということがわかってきました。

胸水を抜くってどんな風に？と思う人もいると思うので説明すると、テーブルを胸の高さまで上げて、上に枕を置きます。私は椅子に座って、上半身裸のまま枕の上に頭をのせて、うつ伏せの格好になります。

S 先生は、一方でレントゲン写真を見て、一方でエコーで聴診をしながら、「ここかな。多分この辺りがいいだろう」などと独り言を言いながら、大きな注射器を胸郭の隙間にプスッと刺します。思わず「あつ」と声が出ます。

「痛くないですか。大丈夫ですか」と儀礼的に聞かれるんですが、心の中では「痛くないわけがないだろう。へボ医者！」と思いながら、「大丈夫です」と答えました。抜く作業が20分ぐらいは続いたと思いますが、その日は500ccほどの胸水を抜きました。頼んで見せてもらったんですが、胸水はやや透明の茶褐色でしたね。「胸水はまだどのくらい残っているんですか」と聞いたら、「2リットルぐらいかな」と平然と言います。これが最初の S 先生との出会いでした。

語ればエピソードはたくさんありますが、一番はなんといっても最初の外来(10.28)の日、私が胸膜癒着も抗ガン剤治療も受けないとやった時、その慌てぶりはすでに述べましたが、最後に一言、「そうだね。今入院したら、そのままってこともあるからね」と、つい本音を漏らしたのかな。

医者というのは、固形ガンには抗ガン剤治療があまり効果がないってことを、経験上知っているんですよ。それなのに厚労省の治療マニュアルにそう書いてあるからそうする、病院でそうするように決まっているからそうする、そんなところじゃないかな。

さて、3月17日、最後の外来のとき、腫瘍マーカーの数字が順調に減っていること、右肺の下3分2ぐらいが白い雲がかかったようになっていたのが、少しだけ肺の輪郭が見え始めていることなど説明を受けました。色々お礼を述べたり、新しい勤務先を尋ねたり、雑談していたのですが、最後に S 先生がポツリ、「2年後にたぶん戻ってくるから、うーん、戻れるかどうかはつきりしないけど、えーっ、戻った時はまた私があなたを担当しますから、頑張ってくださいね」と、ちよつとはにかみながら言ってくれました。

嬉しかったですね。「2年後？」と聞き直しましたが、「ええ」と笑って頷きました。「タグリツソを使った患者さんで、2年、それ以上もった人もいますよ」とのこと。私も「だったら、頑張らなくちゃいけませんね」と答えました。

お互い言いたいことはわかっていました。数ヶ月の短い間でしたが、私にとっては命を救ってくれた人、きつと忘れ難い人になるでしょうね。

血液検査の結果ですが、腫瘍マーカーは2月より下がっていました。血栓症に関係する新 D-ダイマーは正常値よりは高いものの、2月よりも減っていました。

CEA(EIA) : 80.4(12月) → 59.1(1月) → 10.3(2月) → 6.4(3月)

新D-ダイマー: 10.20(12月) → 6.2(1月) → 5.10(2月) → 4.00(3月)

肝臓、腎臓の数値も、一部 Low があるものの、おおむね正常値でした。白血球、血小板も正常値の範囲内でした。ちょっと気になるのはカルシウムで、これは骨が形成されつつあることと関係があるかも知れません。でも、あまり大きな変動ではありません。

Ca : 8.8(12月) → 8.9(1月) → 8.3(2月)L → 8.7(3月)L

来週には、深大寺植物園～深大寺に行ってきます。いよいよ桜も本番ですね。治療も季節も次のステップに移っていきそうです。いっぱい楽しまなくちゃ。

それにしても、「2年後ねえ。…」。うーん、やってみつか。

(目黒さんの寄稿は2回目ですが、医師との出会い、胸水の処置、心に残るお話しでしたので掲載をお願いしました。昨年3月の文章です。)

## 患者会から



患者会は70回を超えるまでになりました。コロナ下で困難な時もありましたが、リモートの採用でどこからでも参加できる、という新しい交流の場となりつつあります。

広報としては文化センター、多摩総、杏林大学病院などへのチラシ配布。ホームページでの告知などを行っています。

市役所や、市民団体プラッツ経由での問い合わせがあり、確実に認知が増えていと感じます。初めて参加された方のお声としては「話せるところがあってよかった」という方がほとんどです。継続していることが患者の希望につながることを確信して開催しています。

### 会計よりのお願い

振込用紙を同封しています。未納の方よろしく願います。ご体調等で退会なさいます方はご連絡いただくと幸いです。

## 2022年の予定

予定変更、中止になる可能性があります。いずれの催しも当面参加人数に制限があります。できる限り事前の確認、参加予約をお願いします。

日時	行事	会場
5月22日(日)	患者会	プラッツ 第7A会議室
6月26日(日)	総会・講演会	プラッツ 第2会議室
7月24日(日)	患者会	プラッツ 第7A会議室
9月25日(日)	患者会	プラッツ 第7A会議室
11月23日(水・祝)	講演会	プラッツ 第3会議室

### 編集後記

6回目の年男ですがいいことはありません。同居の義母(94歳)が乳がん、親戚に骨髄性白血病と今年に入り病気続きです。患者会のMさんが昨年逝去なさいました。ご冥福をお祈りいたします。

発行 府中がんケアを考える会・会報編集部

連絡先 183-0053 府中市天神町3-7-47 武智 一雄  
電話 090-7729-4429 Mail: ktakechi@fuchugancare.org